

『日本経済新聞』（2000年7月8日付け朝刊記事）

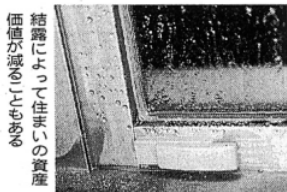


サッシの窓枠にびっしりと水滴が…。室内がじめじめするばかりではなく、健康にも悪影響を及ぼしかねない住まいの結露。これから寒い季節になると、一段と発生しやすくなっていく。どんな点に注意すれば防ぐことができるのか、暖房を本格的に使う季節を前に、住まいを結露から守る生活術を探った。

「結露」の季節近づく 家の大敵を防ぐ方法

住まい

楽
住
楽
居



結露によって住まいの資産価値が減ることも多い

「換気で除湿」を徹底

結露とは、部屋の空気が冷たいものに触れて空気中の水蒸気が水滴になる現象をいう。冷えたビール瓶に水滴がつくのと同じだ。だから、冷たい窓ガラスなどに結露が発生しやすい。

困ったものだが、トステムの坂村格氏は「じめじめして気持ち悪い程度ならまだ軽いほう」と注意を促す。「結露で壁にシミができる」と住まいの資産価値を減らす。坂村氏によると、結露被害を

結露を防ぐちょっとした技

- ①寝る前に5分間、窓を開ける
ちょっと寒いかもしれないが、温度の下がる朝方の結露を防ぐためには夜の換気が肝心
- ②カーテンを時々開ける
カーテンは暖かい空気を逃がさない効果があるが、水蒸気は通り抜けてしまう。窓・サッシとカーテンとの間の空気は結露が発生しやすい状態になりやすい
- ③風が当たる窓には雨戸を
強い風が当たる窓は熱を奪われ、温度が下がって結露しやすい。なるべく雨戸を使って風を防ぐ
- ④暖房をしていない部屋も換気
水蒸気はどこにでも入り込む。暖房していないからといって油断しない
- ⑤鉢植えの場所に注意
鉢植えの草花も水蒸気の発生源。置き場所には気を付けたい

らに、カビの発生やダニの生息などで健康にも悪影響を与えてしまう。結露対策は住まいの基本の一つだ。

結露がひどくなると壁や家具の裏側、押し入れの中にも、シヤカビができる。さらに結露が進むと、壁の表面はさらさらか内部までぬれて腐ったカビが発生したりする。住まいの健康も危ない。寝ている間に人間も体からも発生する。室内の観葉植物や水槽、石油ストーブなどから

も水蒸気は出る。結露対策の第一歩は、こうした水蒸気を室内にためないことだ。ふるのふたを開け放しにしない、洗濯物は室内に干さない、などが基本。部屋の中への水蒸気の拡散を防ぐことから始める。そして何より換気が重要。ちょっと寒い、かも知れないが、炊事や食事の時、寝る前などにちょっとだけでも換気をすまう心がけ。

断熱性を上げる
結露対策の一番目の大原則は、住まいの断熱性の向上だ。例えば断熱サッシを利用すれば、冷たい外気を室内に伝えにくくする。室温は下がりにくくなり、結露の発生を抑えることができる。

断熱サッシはサッシの一部に熱伝導率の低い樹脂素材を使い、さらに複層ガラス構造で断熱性を高めた製品などが代表例だ。価格は普通のサッシの二倍程度はする。最近では建物の断熱性能（K値）の外側に断熱材を張る外断熱工法も「結露対策に有効だ」と注目を集め始めている。

このほか、高気密・高断熱が進む住宅に対応し、住まいメーカーは相次いで換気システムを開発している。

外断熱工法を扱っている業者はまだ少ないが、これから家を建てたり買ったりするのであれば、担当者にした点を聞いてみるのも一つの手段だろう。

『日本経済新聞』（2000年10月14日付け朝刊記事）

住まい

シックハウス症 被害はこうして抑える

新たに住宅を購入したはいいが、目がチカチカ、吐き気もする……。住宅の建材などに含まれる化学物質の影響で体に不調をきたす「シックハウス症候群」を訴える人が増えている。気温が高くなる今ごろから初秋にかけて発症するケースが多く、特に注意が必要だ。有害物質や因果関係などまだ分かっていない点が多いが、打撃手はある。



けい藻の土壁などでシックハウス対策を取る家が増えた（東京・文京区の平田宅）

天井と床は木の、壁はけい藻土や和紙……。東京・文京区の平田豊彦（63）が2年前に新築した住宅は、天然素材がふんだんに使われている。シックハウス症候群の「F1規格」を耳にしていたため、素材から気を遣ったのだ。シックハウス症の原因は、合板・壁紙の接着剤や塗料、防蟻（ぼんずき）剤などに含まれる揮発性の有機化合物と言われる。ホルムアルデヒドやトルエンなどがよく取り込まれる。それならば、合板ではなく天然

天井と床は木の、壁はけい藻土や和紙……。東京・文京区の平田豊彦（63）が2年前に新築した住宅は、天然素材がふんだんに使われている。シックハウス症候群の「F1規格」を耳にしていたため、素材から気を遣ったのだ。シックハウス症の原因は、合板・壁紙の接着剤や塗料、防蟻（ぼんずき）剤などに含まれる揮発性の有機化合物と言われる。ホルムアルデヒドやトルエンなどがよく取り込まれる。それならば、合板ではなく天然

室温上げ化学物質放散

木を用い、ホルムアルデヒドを吸収・分解する効果があるけい藻土を使えば、被害を最小限に抑えられる。と、つづけて、ただ、天然素材はコストが高いため、だれもが手を出せるというわけではない。ここでは、比較的手軽で効果的な対策を紹介しよう。

30度で8時間
まず、家を建てる前ならば、建築会社、ひと・環境計画（東京）や、住居コンサルテ

海外でも同様の症例は出ているが、日本の住宅は接着剤を用いた合板を多用するうえ、気密性の高い住居が増えたせいもあって、症状を訴える人が「数倍で急増」している。既に百万人以上言われる。厚生省なども対策に乗り出している。

名称	主な用途	室内濃度指針値
トルエン	接着剤、塗料	260
キシレン	塗料	870
パラジクロロベンゼン	防虫剤	240
クロルピリホス	防蟻(ぼうぎ)剤	
エチルベンゼン	塗料	
スチレン	断熱剤	
フタル酸エステル	可塑剤	

(注)上記7物質は、厚生省「シックハウス問題に関する検討会」で取り上げたもの。指針値は「健康な人が、その化学物質による健康被害を受けないであろう値」。下の4つは現在策定作業中。単位は1立方メートル当たりのマイクログラム値。引き出しなど探ぐて閉じた空間に1、2個人だけおくと効果的。ただし、湿ったタイパアルデヒドを放散させる恐れがあるので、乾燥したものを使う。ホルムアルデヒドを吸収・分解する

対策過信は禁物

室内の空気中にとろろい化学物質が含まれていることを知ることも大切だ。一部の保健所がホルムアルデヒドの濃度を測定してくれるほか、民間の測定業者を紹介してくれるところもある。厚生省が「健康被害を受けないであろう室内指針値を定めている。公表している。ただし発症には個人差がある。過信は禁物だ。」「合板を使った洋服ダンスを、家具から出ている化学物質で被害に遭う人も多い」（住宅評論家の桜井幸雄氏）という。住居だけでなく、身の回りにある生活用品にも十分気を配るとも大断。

楽
住
楽
居